

崇城大研究グループ発見

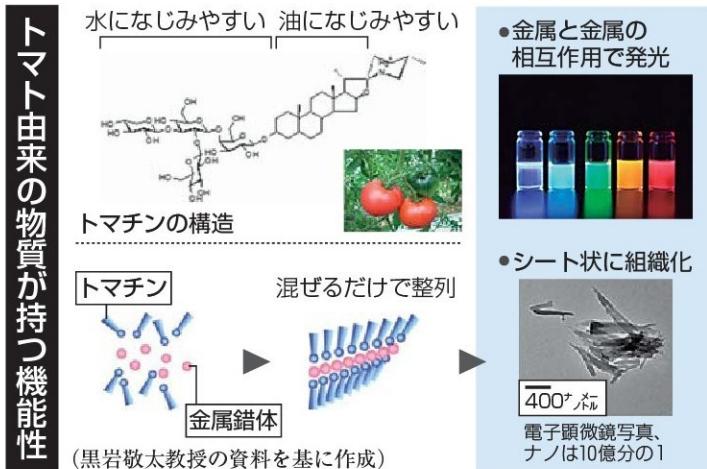
# トマトに先端科学材機能

崇城大工学部の黒石敬太教授(41)＝高分子化学と薬学部の池田剛教授(49)＝薬用植物学の研究グループが、トマトの葉や茎に含まれる物質「トマチン」に、金属化合物と作用し合ってシート状の組織をつくり、発光する性質があることを発見した。最先端の科学材料が持つ機能が、天然

物質にも備わっていることを明らかにした。両教授によると、トマチンはトマトの葉や茎に0・2%（重量比）含まれる。植物が自らの身を守るために物質で、抗菌作用を持つ。洗剤の界面活性剤のように水と油の双方に溶けやすく、複数の糖とコレステロールが複雑に結合してい



池田剛教授 墨岩散太教授



農業県の熊本では、トマトのほか農産物資源が豊富にあり、「さまざまな植物由来の物質で新たな機能を見いだしていくたい」と黒石教授。活用法の探索とともに研究を進めることで、成果は日本化学会の国際誌に掲載された。

金属化合物に導電性を持たせて微細な電子回路を作成したり、病巣に取り込まれやすい金属化合物を使い、発光を診断に活用したりするなどの応用例が考えられるといふ。

## トマト由来の物質が持つ機能性

(松本敦)